## 令和6年度

# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

# 成果報告書

団体名	公益財団法人山本能楽堂	
施設名	山本能楽堂	
内定額	2,955	(千円)

### 1. 基礎データ

(1)	開館	館日数∙事	事業本数・貸館日数		
			項 目	令和5年度	令和6年度
開館	日	数			
	主	催事業		26	31
 		公演事業	<b>*</b>	15	20
年間事			(内、本助成対象事業本数)	0	0
事業本		人材養原	t 事業	1	1
数(			(内、本助成対象事業本数)	0	0
1		普及啓夠	· · · · ·	10	10
			(内、本助成対象事業本数)	10	10
		その他	内容: 記入してください		
	ホ	ールごと	の貸館日数	58	78
		山z	k能楽堂: 記入してください 座席数: 150	58	78
貸館		7	トール名:記入してください 座席数:記入してください		
日数		7	トール名:記入してください 座席数:記入してください		
1	1	<b>—</b>			

座席数: 記入してください

座席数: 記入してください

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

ホール名: 記入してください

ホール名: 記入してください

#### (2) 施設利用者数・利用率

	項目	令和5年度	令和6年度
	主催事業入場者・参加者数	2,202	3,370
1/4	公演事業	1,612	2,757
施設利	人材養成事業	110	121
用者数(	普及啓発事業	800	1,012
	その他 内容: 記入してください		
2	貸館事業入場者・参加者数	9,660	9,060
	その他 内容: 練習、稽古、リハーサルなど	3,360	4,200
	計	15,222	16,630
施討	との利用率(%)	94.0%	94.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

#### (3) 公演事業データ

(O)	事業種別	事業	公演	入場者・	入場者・			事	業本数内	訳		
	尹未性別	本数	回数	参加者数 参加者率		演劇	音楽	舞踊	伝統 芸能	演芸	総合 (※4)	その他
	主催公演(※1)	18	36	2,202	83.0%				18			
令 和 5	共催· 提携公演(※2)	2	2	320	96.0%				2			
年 度	貸館公演(※3)	69	77	9,660	90.0%	1	8	7	54	3		4
	計	89	115	12,182								
	主催公演(※1)	20	43	3,370	84.0%				20			
令 和 6	共催· 提携公演(※2)	3	3	520	96.0%				3			
年 度	貸館公演(※3)	72	81	9,060	90.0%	1	3	3	58	5		2
~	計	95	127	12,950								

- ※1 名義主催は除きます。
- ※2 名義共催を含みます。
- ※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。 ※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

### 2. 公演事業の実績記録と自己評価

- (1) 各公演事業における評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)
  - ・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	市和6年度助成対象事業の75公 事業名		易者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標值実值								
		目標値								
		目標值実績値								
		目標值実績								
		目標 値 実績								
		目標 値 実績								
		目標値実値								
		目標値実値								
		目標値実績								
		目標値実績値								

#### 3. 自己評価

#### 評価項目①:創造性•企画性

評価の観点

- ・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。
- ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジアントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。
- ・自由設定の観点(任意)

#### (1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と日標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標		実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業						
普及啓発事業	・全事業の参加者数 ・新規来場者数 ・参加者の反応(満足度)	・10事業中4事業での目標参加者数を達成。 総参加者数560人		大阪は太閤秀吉が愛した能をはじめ、文楽、上方歌舞伎、上方舞、上方講談、上方落語、浪曲など多彩な伝統芸能が生まれ、育まれた文化集積都市であり、今なお多彩な上方伝統芸能が演じられ続けている「芸能の都」であるが、その魅力が一般の方々に届いていない。そこで、上方伝統芸能に理解を深めることができる多様で多彩な普及・啓発事業を実施し、その魅力を市民が知り楽しむことで、シビックプライドを構築し、さらには各芸能の本拠地での劇場での本公演への誘導につとめ、上方伝統芸能全体の活性化につとめることができた。		

#### (2)「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

本事業では、上方伝統芸能に興味を持った方が、公演時だけでは理解することができないその深い部分の魅力を知り楽しめるよう、従事する演者自身が講師となって、「まっちゃまちサロン 上方伝統芸能 PLUS」や「能活」などの事業を実施したが、他ではめったに企画されることのない雅楽についての体験講座を実演を交えながら行ったり、NHK大河ドラマで関心の高い「源氏物語」をテーマに能楽と浪曲や朗読、落語を組み合わせた企画内容で実施するなど、他の講座ではなかなか体験することのできない独創性の高い内容で実施することができた。

#### 評価項目②:国際性(任意)

#### 評価の観点

- ・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。
- (国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。
- ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。
- 自由設定の観点(任意)

#### (1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
外国人の関心層] 来場者数	能楽堂内での配架の外国語リーフレットの配布数が1000枚以上となること。	レットの配布数が1500枚以上となった。 ・外国人来場者から80%以上の高い満足度を引き出すことができた。	大阪では、大阪・関西万博が開催されるため、激増すると予測される外国人観光客への対応が喫急の課題とされているが、当能楽堂では、約20年前のインバウンドという言葉が一般的でない時代から、行政や経済団体と協働でインバウンドに取組んて来た数多くの実績を持ち、今回の事業でも、外国人の関心層に向け多言語リーフレットの作成、配布および活用が拡充させ、それに伴い外国人来場者数も増加している。		

#### (2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

山本能楽堂は、2008年にブルガリアから能の研究のために大阪大学の大学院に能の研究のために留学してきたペトコ・スラボフさんと出会い、彼の「東欧は親日家が多いにも関わらず、国が貧しく、日本との距離も遠いため本物の日本文化が紹介されることがほとんどありません。私は本物の日本文化を東欧の人々に紹介し、日本と東欧の「文化の懸け橋」になりたいんです」という願いに賛同し、2011年からブルガリアを皮切りに海外公演を主催し、スロバキア、ルーマニア、北マケドニア、アルバニア、フィンランド、フランスなどで50公演を開催し、日本の伝統芸能による国際相互理解を深めてきた。その実績が認められ、平成29年には山本能楽堂が、令和2年にはペトコさんのチームオキナが、それぞれ外務大臣表彰を賜ることができた。そのような海外公演の活動の中で、特筆すべきプラクティスとしては、2016年からヨーロッパ3大演劇祭の1つであるルーマニアのシビウ国際演劇祭から招へいを受け、コロナ禍のオンライン配信を含め9年連続参加しているが、シビウには演劇祭の最後に必ず上演される看板作品の「ファウスト」がある。ゲーテの名作「ファウスト」をルーマニア演劇を代表する演出家のプルカレーテ氏によるもので絶大な人気を誇る。2023年のシビウ国際演劇祭は30周年の大きな節目を迎えたが、演劇祭から許可を頂き、30周年記念として、プルカレーテ氏による「ファウスト」に対峙する 新作能「ファウスト」を新たに製作し、プルカレーテの「ファウスト」に出演するマルガレーテ役の女優アリス氏の讃美歌とのコレボレーションにより初演し、シビウに集まるたくさんの人々にご覧いただき、大きな反響を呼んだ。また、コロナ禍において、世界やな指揮者である日系三世のケントナガノ氏から依頼を受け、ロサンジェルス、パリ、ロンドン、ソフィア、ハンブルク、大阪をネットで結び、約1年半かけて新作能「月乃卯」を制作し、2022年秋に、熊本県八千代座と山本能楽堂で、シェーンベルクの「月に着かれたピエロ」をケント・ナガノ氏の指揮、ハンブルク交響楽団の演奏、藤村実穂子氏によるメゾソプラノと一緒に、上演し、大きな反響を呼んだ。これまでは伝統的な能楽作品を海外で上演するだけであったが、現地とのコラボレーションを行えるようになり、2025年6月には招へいを受け、ドイツでの初演を含む3公演に向け準備を行っている。

#### 評価項目③:地域文化拠点機能

#### 評価の観点

- ・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。
- ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。
- ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※
- ・自由設定の観点(任意)
- ※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

#### (1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
子供対象事業の参加率 連携する小学校数	加者を得る。	・事業によっては目標定員を上回る参加者を得ることができなかった。 ・連携する小学校数は20以上となった。	子供対象事業の参加率が目標定員を上回る参加者を得、連携する小学校数が目標値を上回った。		

#### (2)「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

山本能楽堂は、大阪城の武家屋敷地区に位置するが、このエリアは長い年月をかけて歴史と文化の宝庫としての大阪での位置づけを広く内外に周知するため、地域の方々がシビックプライドを持って育んでこられた場所であある。その地域との連携により、大阪城を築城した太閤秀吉が愛した能楽を、地域の拠点として地元住民が育てた桜で満開となる中大江公園で上演できたことは、「秀吉と 桜と能楽」という、地元に根差した、この地域ならではの美しい日本文化の発信となった。参加者も、コロナ前の600人程度から、コロナ禍後最大の1000人近い集客となり、偶然その場に居合わせた 多数の人々も含む、大勢の方に、日本を代表する伝統芸能である能楽の魅力を楽しんで頂く機会とすることができた。また、通常能楽堂での能の鑑賞は、未就学児は不可とするところがほとんどで あるが、当日は、ベビーカーを押した家族をはじめ、大勢のファミリー層も楽しみに鑑賞に集っており、普段なかなか届かない年齢層にも能の魅力を楽しんでいただくことができた。さらに、会場となっ た中大江公園から山本能楽堂は徒歩5分程度であるが、新しくできた高層マンションへの入居者を中心に、能楽堂の存在を知らない方々への周知につながり、そこから実際に能の公演に参加を希 望する方もあり、本公演への誘導を行うことができた。

#### 評価項目④:多様性とアクセシビリティ

#### 評価の観点

- ・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセンビリティ)でがいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
- ・自由設定の観点(任意)

#### (1) 令和6年度の自己評価

誕価補助シートで設定」た誕価均標と目標(値) 及び その達成度に言及したがら自己延価を記入してください

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
アウトリーチ事業の実施数	・アウトリーチ事業を4事業以上おこなう	・アウトリーチ事業を8事業実施した。	アウトリーチ事業の実施数の目標数、外国版リーフレットの配架目標数を上 回ることができた。		
ト国版リーフレットの周知	・外国版リーフレットを1000部以上配架	・外国版リーフレットを1500部以上配架できた。	E-SCCN CCIC.		/
					/

#### (2)「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

大阪・関西万博が開催されているため、これまでの経験を活かし、多くの外国人の方に能を楽しんで頂くためのプログラムを、様々な角度から、万博の中でも、万博の外でも(能楽堂を含む)実施し、日本を代表 する伝統芸能である能楽の力による国際相互理解を推進している。

#### 評価項目⑤:自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

①別是は 正国は、②国际は、②地域人にた無成形、④シ际はこ)プログロブライ、②産員	評判に行動すれば、AAは C1973人に映像に自分の5.40.80、表現につかって、自己計画を行うていてい。	
	評価の観点	

#### (1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・大阪・関西万博の周知を行い、来場	・大阪・関西万博の周知を行い、来場 者の60%以上が大阪・関西万博を訪	・大阪・関西万博の周知を行い、来場者の80%以上が大阪・関西万博を訪れたいと回答する。	・大阪・関西万博の周知を行い、来場者の60%以上が大阪・関西万博を訪		

#### 評価項目⑥:運営体制と持続可能性

		現状	目標(値)	• 所見	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現	性」の評価項目より						
( <b>7</b> )	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	つとめているが、さらな る努力が必要である。	前年比10%の増額	前年比約16%の減額と なった	伝統芸能の公演は、経費がかかり、 なおかつ観客数が少ないため、助成 金や寄附金、協賛金がないと経営が 困難である。そのためできる限りの努 力を重ねている。		
(1)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	つとめているが、不十分 である。	会員数を前年比10%の 増加を目指す。	会員数は横ばいであった	会員数が活動のベースになると考 え、会員数の拡充をできる限りつとめ ていきたいと活動を続けている。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を 通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	連携は行っているが、それによる効果的で効率 的な事業運営には結び ついていない。	実質的な事業連携が行えるようつとめる。	新規で連携を行う施設 が2施設増えた	他の劇場・音楽堂とは、広報連携を 行い、新たな観客者層の拡大につと めている。昨今、寺社仏閣との連携 が広がっている。		
(I)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通 を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待でき る。	該当せず	該当せず	該当せず	該当せず		
「持続	可能性に関するチェックシート」より						
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材 が配置されている。	0			概ねこのままの状態で問題なく、新たな芸術創造の環境が整い、新たな活動の幅を広げてきている。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営 実務者が配置されている。	0			監事やその他の専門職からアドバイ スを受けるようにしている。		
(+)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性 を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の 確保や育成に努めている。	0			概ねこのままの状態で問題なく、新たな芸術創造の環境が整い、新たな活動の幅を広げてきている。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その 他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性 を基に整理され、役割分担されている。	0			概ねこのままの状態で問題なく、新たな芸術創造の環境が整い、新たな活動の幅を広げてきている。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	0			新たに40歳代の職員を雇用した。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	0			全体の女性の比率が80%以上である		
(#)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度 を整備し、推進している。	0			整備はしているが、現在該当者がいない。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	0			概ね問題ない		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針 等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	0			概ね問題ない		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	0			概ね問題ない		

#### 4. 総評

#### ・ 団体の自己評価

山本能楽堂は「Tradition for a better future」をミッションとしてかかげ、大阪ならではの地域の特性を活かし、秀吉に愛された能楽を中心に大阪に伝わる上方伝統芸能を現代社会に活かし、「伝統をより良い未来社会に活かす」べく事業を実施している。伝統芸能は、急激に生活様式が変化しつつある現代社会においては、一般の方には縁遠い世界のように思われがちである。当財団は、多様で多彩な切口で伝統芸能を紹介することで、「現代に生きる魅力的な芸能」として捉えなおし、次代への継承へと繋げていきたいと考えている。

また、大阪は、秀吉が能の魅力に傾倒し、「見るだけ」でなく「自ら能を舞う楽しみ」を見出して以来、「嗜む文化」が形成され、その後、文楽、上方歌舞伎、落語、講談、浪曲など、多彩な上方伝統芸能が生まれ、育まれた「文化集積都市=芸能の都」である。その特性を活かし、「芸能の都」として多面的・多角的に能を中心として、文楽、歌舞伎、上方舞、落語、講談、浪曲等の大阪で伝えられ、育まれてきた上方伝統芸能全体の、魅力の創出、情報発信による普及・啓発をおこない、市民によって守られ、「人の手から手へと」伝え続けられてきた伝統芸能が、社会における役割を再確認し、その魅力を再構築し、伝統芸能が社会に果たすべき役割を追求し、事業を実施することができた。

本年は、大阪では特に大阪・関西万博が開催され、国内外の多くの人々が大阪を訪れると同時に、大阪の文化への関心も高まっているように感じている。当財団は、2006年頃より、大阪の経済団体や観光協会等と連携し、大阪に伝わる伝統芸能を貴重な地域遺産として捉え、その魅力を観光に活かすことで、観光集客を行い地域の活性化を目指すよう活動を続けてきた。助成を頂くことで、様々な先駆的で、実験的な事業を行ったり、専門的な事業を行い、地域に伝わる伝統芸能の魅力を広く伝えることができ、そのノウハウやネットワークを活かし、大阪・関西万博に向け、少しづつではあるが、国内外から大阪を訪れる観光客に向けた商品開発を行うことが可能となり、文化を経済に活かす取組を行わせて頂くための実績を積み重ねてきた。具体的には、敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げ、地域住民の鑑賞活動の拡大に資することができた。同時に、演者同士の連携を育み、上方伝統芸能全体の活性化につなげ、創造活動の幅を広げることにもつながった。活動を継続して実施することで、上方伝統芸能の周知につながり、他団体との連携が生まれ、「面」としての地域活性化につなげ、地域住民のシビックプライドを構築することができたと自負している。

そして、上方伝統芸能を国内外の観光集客にも活かすことで、地域の発展を支え地域の活性化を行うことを、そして、その実績により上方伝統芸能が次代へと継承されていくための環境を整備することを目的に活動を行っているがなか容易ではない。

そのような中、これまでの事業の実績が認められ、万博会場での様々なイベントで、上方伝統芸能の魅力を発信する機会を頂戴し、現在も多数の公演の依頼を受けている。大阪・関西万博を契機として、国内外の人々に、大阪で生れ、育まれ、大切に守られてきた上方伝統芸能の魅力を発信し、再評価していただくことで、次代への継承へとつなげていきたい。

また、当財団では、能をはじめとする上方伝統芸能の普及と継承と共に、海外公演やインバウンドの推進にも注力してきた。特にインバウンドの推進は、行政や経済団体と協働で、まだインバウンドという言葉が一般的でない頃から、様々なプランを練り上げ、改良を行い、ノウハウを積み上げてきた。現在、当能楽堂で実施している公演の80%以上はインバウンド対応でおこなっている。その実績により、大阪・関西万博にあわせ、会場内でも、会場外でも(山本能楽堂を含む)、外国人対応公演やワークショップなど様々なイベントを実施させて頂き、国内外の多くの観光客の方々にも、能や上方伝統芸能の魅力を楽しんで頂いている。

目まぐるしく変化する時代の中、価値観さえもその時々にあわせ、変わってしまうような世の中を迎え、数年先のことさえ予想ができなくなってきている。そのような時代の中で、伝統芸能の魅力を伝え、共感を生みだし、新たなファン層を構築することは、かなり困難な時代になっていると感じている。新しい価値観が生まれ、人々の嗜好が細分化、多様化する中、同時にファン層の高齢化もすすみ、どのようにして、日本の伝統芸能を次代へと継承していけばよいのか、以前よりも試行錯誤することが多くなり、同時に新たな視点を注力することの大切さを日々感じている。しかしながら、現在の活動の先にしか未来はなく、その時々の時代の風を取り入れながら、できることをコツコツと積み上げ、「伝統の中にこそ未来がある」と信じ、活動を続け、伝統芸能の未来への継承に少しでも貢献することができればと考え、活動をおこなっています。

#### • 所見

